



嗅神経芽細胞腫

(きゅうしんけいがさいぼうしゅ)



※内容を簡素に記載しております。詳しくはHPをご覧ください。

嗅神経芽細胞腫について

嗅神経芽細胞腫は、鼻の中の上方に存在する嗅上皮から発生するめずらしい腫瘍です。鼻副鼻腔腫瘍の2%から3%を占め、100万人当たり0.4人に発症します。若年から高齢者まで幅広い年代で発症しますが、20歳代、60歳代に発症のピークがあります。発症に性別差、人種差は特にありません。

症状について

比較的ゆっくり発育する腫瘍であり、初期では無症状ですが、鼻づまり、鼻出血などで発症することが多いです。腫瘍の増大に伴い、嗅覚障害、頭痛、目の動きの障害などが生じることもあります。

診断について

腫瘍から組織を採取し、病理学的に診断を行います。内視鏡検査および、CTなどの画像検査により病気の範囲を把握することが大切です。

治療について

治療は、手術による完全切除に加え、術後放射線治療が基本となります。近年では早期病変に対しては、鼻内内視鏡を併用した侵襲が少ない手術を行うこともあります。浸潤性が高い腫瘍ですが、手術治療の後に放射線治療を行うことで、再発の危険性を低下させます。

切除不能例、遠隔転移例に対する治療の中心は薬物療法です。

治療後は、定期的な経過観察が必要です。再発時期は最初の数年が最も多いですが、10年以上経過した後に、再発する可能性あり長期間経過を追っていく必要があります。

